

第 154 回日本獣医学会学術集会
日本比較薬理学毒性学会 拡大評議員会 議事録 (案)

2012 年 9 月 16 日 (日) 10:00~12:00 岩手大学 第 7 会場 10 時~

1. 第 153 回日本獣医学会学術集会 (大宮) での日本比較薬理学毒性学会拡大評議員会議事録が承認された
2. 全国大学獣医学関係代表者協議会の報告
 - ・来春から会長が伊藤 (北大)、副会長が谷山 (酪農学園大) に変更する。
 - ・CBT への参加について公式に全国協議会から各大学へ依頼し、正式に各大学として参加を表明する手続きが近く取られる。
 - ・第三者評価は大学基準協会に依頼することが正式に決定した。
3. 国公立大学獣医学協議会の報告
 - ・CBT と国家試験との関係について全国協議会レベルで時間をかけて討議する必要性が提案された。
 - ・CBT と卒業要件の関連性について討議された。
 - ・国公立協議会内に北海道大学の稲葉教授を会長とする第三者評価委員会を設置し、各大学から委員を選出する。10 月にでも第 1 回の委員会を開催予定。
 - ・上記委員会を中心に国公立大学の自己評価を行う。
4. 私立大学獣医学協議会の報告
 - ・私立大学獣医学協議会の機関誌として「獣医学振興」創刊号 900 部が 32 機関・団体に配布。
 - ・参加型臨床実習における小動物臨床ガイドライン、産業動物臨床ガイドラインが作成された。
 - ・H24 年 4 月から会長に政岡学長 (麻布大学)、副会長に谷山学長 (酪農学園大学) が就任。
 - ・産業動物診療分野への参加型実習取り組みに関する要望や改善点のアンケート調査が行われる予定。
 - ・e-Learning システムの私立大学での利用について協議されたが結論は出なかった。
5. 日本比較薬理学毒性学会若手勉強会新体制と運営について
 - 公的な学会シンポジウム企画や講演会企画、実習書関連業務などは若手勉強会からは切り離し、拡大評議会内に WG として設置することとし、若手勉強会は本来

の本学会会員内の教員、大学院生、学部学生の研究室間・大学間交流と研究・教育の情報交換の場とすることが承認された。当面は乙黒（北大）、村田（東大）が幹事としてスタートする。

6. 若手勉強会刷新に伴う日本比較薬理学・毒性学会拡大評議員会内・新 WG 設置が承認された。

① 教育講演会・シンポジウム企画 WG

乙黒（北大）、山脇（北里大）、佐々木（農工大）、西村（大阪府大）、白石（鹿児島大）が現在の WG 委員
准教授から順次交替して選出していく
2名は獣医学会のプログラム委員を兼務

② 薬理学・毒性学実験 実習書 WG 委員

堀（東大）、石塚（北大）が現在の WG 幹事

7. 薬理学・毒性学実験 第3版改訂の進行状況（堀）

薬理学毒性学実験 第3版改訂版の改訂作業は完了し、すでに印刷も完了。
現在の第3版の残りの在庫がなくなり次第、随時改訂版の市販に移行。
その段階で全教員い1冊ずつ献本を予定している。

8. 臨床薬理学共用テキスト作成作業について

委員長 下田（農工大）、副委員長 堀（東大）を中心に、H25年度末までに完成させる。まず、学会員（准教授中心）で編集委員を募集する予定。

9. 第155回日本獣医学会学術集会について

・開催日時と場所

H24年3月28日（木曜）～30日（土曜）東京大学駒場キャンパス

・教育講演会

「腸管粘膜固有層の自然免疫細胞群の機能解析（仮）」

（東大医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発センター・特任教授 植松智先生）

・企画シンポジウム「薬剤耐性のメカニズム」

・一般ポスター演題（主宰校として優秀ポスター賞設置予定）

10. 獣医学会の公益法人化後の分科会のあり方について

・獣医学会の定款改定後に分科会の定款を合わせる。

・決算時期がこれまでの2月1日～1月31日から8月1日～7月31日に変更
（移行期は変速決算となる）

- ・分科会会計を獣医学会提出用の会計と合わせる必要がある（実習書印税扱いなど
対処が必要）

資料①

日本比較薬理・毒性分科会拡大評議委員会議事録（案）

日時：平成 24 年 3 月 28 日（水）第 153 回日本獣医学会学術集会

場所：大宮ソニックシティー 第 4 会場

議長：山田章雄会長（国立感染症研究所）

出席者（敬称略）：北海道大学（伊藤茂男、石塚真由美）、酪農学園大学（寺岡宏樹）、北里大学（原幸男）、岩手大学（古濱和久）、東京農工大学（佐々木一昭）、東京大学（尾崎博、堀正敏）、日本獣医生命科学大学（金田剛治、田島剛）、麻布大学（浅井史敏、白井明志、代田真理子）、大阪府立大学（中川博史、西村和彦）、鳥取大学（高橋賢次）、山口大学（佐藤晃一）、宮崎大学（池田正浩、園田紘子）、鹿児島大学（宮本篤）

I 報告事項

1. 全国獣医関係大学代表者協議会について

・コアカリ

大幅な見直しは 5 年後（3 年後から改訂作業開始）

国家試験基準との整合性の問題が挙げられた

・共通テキストについて

H28 度正式スタート（予定）

科学研究費 A を申請中でこの予算で準備を行う

CBT 問題作成を Web 投稿方式で開始・東大でトライアル後 5 月中旬から全国で実施（10 題/1 人をノルマ）。

・共用テキスト

すでにいくつかの教科で共用テキスト完成。

獣医薬理学、獣医毒性学、獣医臨床薬理学：今後作成作業に入る

2. 国公立協議会について

第三者評価についての意見交換、共同教育課程の報告など

3. 私立協議会について

会長として政岡先生（麻布大学）が着任

大学評価についての報告

II 協議事項

1. 平成 22 年度会計報告について

平成 23 年度収支について報告があり、承認された。

2. 若手勉強会より

現在の若手勉強会の運営、形態などの刷新が堀（東大）より提案され、学会終了後、メール会議にて現在の若手勉強会幹事を中心に討議し、秋の獣医学会で新体制の承認を受けるとともに新体制でスタートすることが了承された。

資料②

日本比較薬理学毒性学会若手勉強会新体制

(目的)

獣医薬理学、毒性学講座に所属する教員、大学院生、学部学生の大学間・研究室間交流と研究・教育の情報交換の場とする。

(組織)

① 幹事 3 名

1 名は次期学会主宰校の薬理あるいは毒性学講座の助教か准教授

乙黒先生（北大）、村田先生（東大）・・・数年ごと指名制で幹事は交替していく

② オブザーバー（相談役）：堀（経理：日本比較薬理学毒性学会と共通）、石塚

③ 会員：学部学生から大学院生、教員など、身分と年齢は問わない。ML への登録。

④ 公的な薬理毒性学会のシンポジウム企画、講演会企画、実習書関連の業務：

日本比較薬理学毒性学会拡大評議員会の中に別途 WG として委員会を設置し、若手勉強会からは切り離す。

講演者の企画・招聘は助教には困難なケースがある→薬理毒性学会全体の企画なので拡大評議員会に WG として委員会を移す。

⑤ 活動：

学部学生、大学院生、助教を中心にした研究発表、教室紹介などを含めた交流。講演会、情報交換会など、企画は自由。

(関連して変更する点など)

① 日本比較薬理学毒性学会代表の獣医学会プログラム委員

これまで尾崎先生（東大）、海野先生（岐阜大）であった。

→→シンポジウム・教育講演会企画 WG が引き継ぐ

（現在の乙黒、山脇、佐々木、西村、白石が引き継ぎ、2 名の准教授を選出）

随時ローテーションで交替していく。准教授が中心に企画を出していく。

② 実習書関係メンテナンス WG

堀（東大）、石塚（北大）が当分は WG 幹事として取りまとめる

資料③

薬理・毒性学実習コアカリに対する現在の実習書の対応度についての 意見調査結果 (H24.3)

- ★ 薬理学・毒性学実験 第3版(改訂版)を部分改訂することでコアカリ対応実習書とすることが可能という意見であった。(否定的意見はなし)

- ★ これまでの実習書作成の経緯等を踏まえると、コアカリ項目のみを実習書の項目とすべきではない。従って、コアカリの項目よりも実習書の項目が多い分には問題はない。
- ★ コアカリの項目の現在の実習書に抜けている項目については、追加してコアカリ対応実習書とする。

★ しかし、、、

コアカリ対応の実習を全ての大学で行うことは現時点では無理がある。今回のコアカリ項目について、全国の各大学が現在実施しているコアカリ項目を調査し、必要な装置や器具、問題点などを洗い出し、全ての大学で実行可能かどうか、できないときはどのように対応するかを検証すべきではないか。その上で、再度、5年後(実質的には3年後から始まる)コアカリ項目の改定を視野に入れて、進めるべきである。

(総括) 基本的には現在の実習書をコアカリ対応実習書として改訂することが将来可能であるというのが総意。ただし、各大学の環境やコマ数に対応したより現実的に実施可能な実習コアカリにするために、実習コアカリの現行項目からの絞り込みが必要かもしれない。また、実習コアカリ対応実習書として改訂する際の表記法についても将来的に検討する必要がある。

以上の調査結果を踏まえて、

- ★ 薬理学・毒性学実習 WG を設置してはどうか?
 - ・現在の全大学での実習実施現状調査
 - ・調査結果に基づく実施可能な必須項目の選出(○、△での格付け)
 - ・コアカリ対応実習書のフォーマット決め→第4版からコアカリ対応版とする前準備